

شكراً



2023年度 活動報告書
(2022年10月~2023年9月)

NPO法人Piece of Syria



2023年度 活動のハイライト

シリア » P.5

SAKURA幼稚園の受け入れ 生徒数を200名→300名に増員。

国内避難民が集まり、支援の届きにくいシリア北部で運営支援をしているSAKURA幼稚園。地域で唯一、無料で通え、高い質の幼稚園として評判で、入園希望者が殺到するため、受け入れ体制を整え増員しました。

友達と遊べる時間が
とっても楽しい!



シリア » P.3

緊急地震支援に奔走。 1,200万円分のご支援を 現地へ届けました。

2023年2月6日の大地震発生直後、多くの個人・法人の方からご寄付をいただき、緊急支援として物資・食糧配布、現金給付などを行いました。並行して、SAKURA幼稚園では子ども達のその保護者向けの心のケアも実施しました。

長期的に心のケア事業
を継続していきます!



シリア » P.4

小・中学校での越冬支援を実施。 44,242名の子ども達に 暖かな教室を届けました。

地震被害を受けたシリア北部の小・中学校54校に、灯油ストーブ・燃料タンク等を届けました。この活動には、団体史上最高額を達成したクラウドファンディングの資金(773.2万円)を活用、さらに活動の重要性を鑑み、継続のご寄付から100万円を追加して実施いたしました。

(※2023年のクラウドファンディングにご支援いただいた方への報告書を兼ねるため、2024年度の実施事業ではありますが、本報告書に記載させていただきました)

元気いっぱいの
子ども達から
大歓迎を受けました



トルコ » P.6-7

200名のシリア難民の子ども たちが通う補習校。 5年ぶりに事業地を訪れました。

2021年から運営支援をしているトルコの補習校では、その都度求められるニーズに合わせた補習授業を実施しています。7月には代表の中野と鈴木がトルコを訪問し、より効果的に事業を行うべく、運営体制を改善しました。

やっと会えた!
スタッフと感動の
対面の瞬間



シリア / トルコ » P.8

シリア人スタッフが初来日! 教育の質向上のための研修。

2023年6月には教育プロジェクトマネージャーのウサマが訪日し、様々な角度で日本の教育事例を学ぶ機会を作りました。ウサマにとっては念願の初来日。日本での学びを、シリア人現地スタッフとも共有し、「教育の質」の向上に向けて現地でのプロジェクトが進んでいます。

明治大学では岸准教授の
ゼミを訪問。
心のケアのためのアートや
身体表現を使ったセラピーを
学びました。





【特集】トルコ・シリア地震緊急支援

どんな状況でも教育を止めない

2023年2月、シリア・トルコの活動地を大地震が襲いました。シリア北西部では180万人が被災、30万人が家を失い、50%を超える学校が影響を受けました。私たちは現地シリアスタッフと共に、支援が届きにくいシリアにて、テント・食料などの緊急支援、心のケアのアクティビティ、小学校の校舎の修復、そして校舎の修復が完了した小中学校への越冬支援を実施しました。

先生達がこの地域に留まるために

「教育を続けるためにもまず、先生達に支援が届けることが重要だ」…そう話す現地スタッフの声を元に、共に活動してきた先生達が、今後も教師として地域で活動を続けてもらうため、教職員を対象にした緊急支援を実施しました。

公共サービスが届かないシリア北部では、先生が無給であることも多く、経験のある先生が別の場所に避難し、先生不足から学校が閉鎖する問題がありました。今回の地震後、地域から先生がさらに減ってしまうリスクが高まっていました。緊急支援によって、地震後も多くの先生達が教員を続けることができました。

緊急支援で実施できたこと

約650名の方から約1200万円のご寄付を届けていただき、下記事業を実施しました。

108世帯

テント・毛布・食糧配布

地震での家屋被害が特に大きかった教員の世帯を対象に、家族4名が生活できる簡易テントを100世帯分、毛布や食糧が備わったテントを8世帯分、配布しました。



700名

教職員への現金給付

家の補修や、子どもの数、家族の持病など、各家庭ごとに異なるニーズに応えるために現金給付を実施しました。家の補修を現地の職人に依頼することは、地域経済にとってもプラスに。

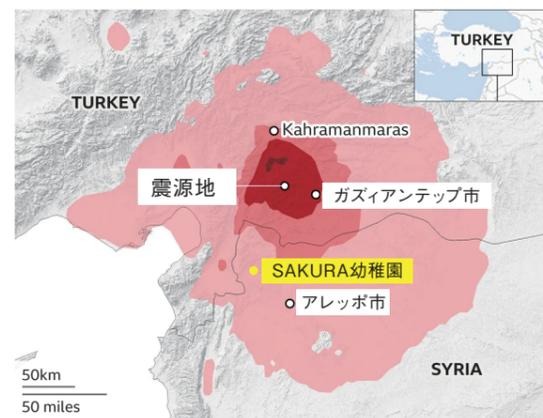


地震緊急支援の
中間報告書はこちら



シリア・トルコ地震の被害区域

■深刻 ■非常に強い ■強い ■中程度



Source: Joint Research Center of the European Commission

地震からの復興。「教育が後回し」とならないために

地震直後は世界中から支援が集まったものの、地震から数ヶ月が経つと、報道の減少と同じくして支援団体の数も資金も減少傾向に。さらに、集まる寄付も、緊急性が高い医療・住居・食糧への支援が集中する中で、教育支援は後回しとなっていました。結果、地震で破壊された校舎の復旧は進まずに、戦争によって悪化した就学率はさらに低下しました。

学校に行けていない状況が長期化すると、学校に行く習慣が失われ、子ども達は学校に戻らなくなります。さらに校舎が壊れたままだと、先生達が仕事ができないために地域から去ってしまい、学校が再開できないリスクも生まれます。だからこそ【教育支援も緊急支援だ】と現地スタッフは話します。

そこで、小学校2校の修復を実施。外壁の修復、電気修理、黒板入替などを行ない、新学期が始まる9月までに学校が再開しました。さらに、校舎が修復できた小・中学校への越冬支援を実施。シリアの冬は氷点下を下回るほどの寒さになります。そのため、学校に灯油ストーブがなければ、子ども達が「教室が寒くて学校に行きたくない」となりかねません。越冬支援によって、4万人超の子ども達が教育を続けることができました。戦時下における学校の役割は基礎教育ではありません。戦争に加え、地震によるトラウマを抱えた子ども達も多く、心のケアの重要性が上がっており、学校で子ども達同士で遊んだり、心理的ケアの専門家と共にアクティビティの機会を作るほか、心のケアセンターの設立を準備しています。



※この写真の学校は、修復を実施した校舎の写真ではありません。
シリア北西部では50%を超える学校が影響を受けました。



校舎が修復し、学校再開。クラスメートと遊ぶようになりました。



氷点下にもなるシリアの冬では、温かい教室で学べる環境を整えることが大切です。



「教育支援も緊急支援」と考え、学校に行く習慣を失わせないことを重要視しています。

2校(生徒350名)
小学校の校舎修復

校舎の壁に亀裂が入り、生徒たちも不安になり授業ができなくなったシリア北部の2つの小学校で、校舎の修復を実施。授業を再開できました。

54校(生徒44,242名)
小・中学校の越冬支援

校舎を修復し、運営が再開したシリア北部の54の小中学校・672の教室に、灯油ストーブ・燃料タンク・約2ヶ月分の燃料を届けたことで、暖かな教室で授業が続けられました。



先生の声

私たちは日本を見本にして、戦争から復興していきたい。

私は、シリア北部の小学校の教師カディジャです。日本の皆さん、ご支援を本当にありがとうございます！戦争・地震の惨禍に苦しむ子ども達にとって、安全な教育環境は重要です。しかし、地震後、校舎の壁が壊れ、生徒達は不安を感じていました。校舎が修復し、電気が復旧して授業が再開できたことは、どれほど生徒達にとって嬉しかったか！私はいつも生徒たちに、日本の話をしていました。第二次世界大戦後、教育の力で復興を遂げ、平和な国を実現した日本を私たちは見本にしたいと思っているからです。そして今、日本の皆さんは、私達に必要な支援を届けてくださいました。学校の教職員を代表して、皆さんに感謝を伝えさせていただきます。



戦争前に「当たり前」だった教育を「また当たり前」にするために

2011年まで99.6%の就学率、大学まで無料と、教育が当たり前だったシリア。しかし、2011年3月から続く紛争、そして昨年2月に発生した地震の影響も重なり、シリア北西部では学齢期の45%にあたる220万人が学校に通っていません(OCHA,2024)。この地域は、戦争によって政治的な分断から、自治体機能は脆弱で、公共サービスはないため、教育機関は国連・NGOに依存しており、先生の給与が払われない・他地域への避難など、先生の数や質の面で課題があります。また、安定しない治安やトラウマから子ども達が学校を退学するケースが多いのが現状です。Piece of Syriaは「未来の世代を育成する」を目的に、基礎教育と心のケアを実施する幼稚園を運営しています。

2022年から運営している幼稚園は、「第二次大戦後、教育の力で平和を築いてきた日本から学んでいきたい」という思いを込めて、シリア人スタッフが「SAKURA幼稚園」と名付けました。

受入れ生徒数を増員:1人でも多くの子ども達に教育を届けるために

幼稚園では、4~6歳の生徒に、アラビア語(国語)・英語・算数と言った基礎教育、楽しみながら集団生活を過ごすため心理社会的ケアを提供しています。戦争によるトラウマから学校を怖がったり、家から出られなかったりすることも、小学校を退学する理由となっています。それゆえ、幼稚園を安心できる場所だと感じてもらうことは、今後、子ども達が学校に通う習慣を身につける上で大切です。「友達と遊ぶのが楽しいという声も大きな成果なんです!」とシリア人スタッフは話します。地域で唯一、無料で通え、かつ高い質の幼稚園として評判で、入園希望者が殺到するため、2022年に100人から200人に増員しました。そして、皆様からのご寄付のおかげで、2023年4月からはさらに300人へ増員しています。



治安は不安定なので、安全に通園できるバスが大活躍。



卒園式でダンスを披露。大人達も笑顔になります。



友達と一緒に遊びを楽しむことも大切な成果。



シリアでは、水泳はサッカーと並ぶ人気のスポーツ。

幼稚園に通っていたオマルくんのストーリー

2022~23年にSAKURA幼稚園に通っていたオマルくんは、賢く活発な男の子。ですが、授業に集中できないことに悩まされていました。オマルくんが一番前の席に座りたいと話していたので、幼稚園の先生が視力が悪いのではないかと、保護者と一緒に病院に連れて行きました。すると、弱視であることが判明し、医療用メガネを提供してもらいました。それから彼はいつも付きまっていた頭痛もなくなり、より活動的に、勉強に集中できるようになりました。

オマルくんは優秀賞で幼稚園を卒園し、小学校へ進学した後もクラスで最も活発で賢い生徒だということです。

それは、生徒にきめ細やかな対応をしてくれた幼稚園の先生と、そのおかげで基礎教育をしっかり学ぶことができたからだ、保護者の方から声が届いています。



トルコの学校に戻るために、シリア国境の街で補習校運営

最も多くのシリア難民を受け入れているトルコ(シリア難民の約60%)。戦争開始当初、トルコ政府はアラビア語で学ぶシリア人の学校を認めていましたが、長期化する戦争でシリアに戻ることができない難民に対し「帰らないならトルコ語・トルコ文化を学ぶように」と方針を転換し、シリア人の学校は禁止され、アラビア語で学ぶ機会が失われました。また「トルコ語で行われる学校の授業についていけない」「難民に対するイジメ」など理由もあり、就学年齢のシリアの子ども達の1/3が学校に行けていません。そこで、2020年からPiece of Syriaは、シリア国境の近くのトルコ南部の街ガズィアンティップ市で、自治体と協力し、シリア難民向けの補習校の運営を開始。トルコの学校に戻れるようにするためのトルコ語の補習事業やトルコ人の学校と共同のアクティビティを実施しています。

不安定な生活の中、あらゆる選択肢が取れるように

当初、補習校ではトルコ語の補習を中心に実施していました。しかし、トルコ生まれの生徒が増え、今では子ども達はトルコ語の方が理解できるようになり、母国語であるアラビア語は家族で使うために会話はできても、読み書きができない子ども達が多くなってきました。そこでアラビア語の読み書き、トルコのカリキュラムをアラビア語で学ぶ算数の授業を重視しています。加えて、シリアの文化・歴史を学ぶ時間、お絵描き・運動の時間、掃除などのマナーを学ぶ時間も。トルコは、2023年の大統領選挙の際に「シリア人を帰還させるかどうか」が争点になっており、政権次第でシリアに強制的に帰還させられることもありえる、とシリア人は危惧しています。そのため「トルコでもシリアでも住むことができる教育の基礎を作っておくことが重要だ」と話します。



アラビア語の歌を使ったダンスや、アレppo城の絵を描いたり、楽しみながらシリアを身近に。



不安定な避難生活は、家族から余裕を失わせます。遠慮でリラックスできる時間を。



クラス分けは年齢ではなくレベルに合わせて。トルコ語の補習が必要な生徒には、補講を実施します。

シリア 地域で唯一の無料の幼稚園

生徒300名、職員19名

月~金、午前と午後で150名ずつが通います。卒園した生徒達が地元の小学校に進学できるよう、幼稚園スタッフがサポートし、卒園生全員が進学しています。

トルコ シリア難民向け補習校

生徒200名、職員8名

平日は建物は使えず、シリア人の生徒達は学校に行っているため、授業は土日のみ。午前と午後で、近くに住む100名ずつが通っています。



現地活動費

SAKURA幼稚園運営費(年間)

- \$24,000: 教職員の人件費
- \$ 7,000: 筆用具・バッグ・教科書
- \$ 7,700: 家賃・バスのガソリン代
- \$ 4,350: 光熱費・メンテナンス

地震緊急支援

- \$ 10,000: 簡易テント
- \$ 3,200: テント/防寒具/食糧
- \$ 64,000: 現金給付

小学校の校舎の修復

- \$ 2,682: 1校目の外壁・電気修理など
- \$ 1,616: 2校目の壁修理、黒板入替など

越冬支援

- \$ 1,691: 灯油ストーブ(38台)
- \$ 2,700: 灯油タンク・設置費(20個)
- \$ 44,930: 灯油(56,162ℓ)

安心してご寄付いただけるように

外国人が入れない地域での活動のため現地で使う予算の妥当性や事業地のモニタリングなどを、現地に詳しい第三者のシリア人NGO職員に依頼し、実施しています

トルコ補習校運営費(年間)

- \$ 20,400: 教職員の人件費
- \$ 1,300: 筆記用具
- (自治体の建物のため、家賃・光熱費無料)

トルコ出張レポート

事務局長 鈴木のどか

2023年7月1日～17日まで、代表の中野とスタッフの鈴木はトルコへ出張に行ってきました。今回の渡航の主な目的は、トルコに住むシリア難民の最新の状況について情報収集すること、そして事業地を視察することです。

シリア人が多く住む、南部のシャンルウルフア、そして補習校のあるガズリアンテップを中心に訪れました。

シリア人へのヒアリングを通して、これまで比較的難民受け入れに寛容だったトルコ政府の方針が変化しつつあり、トルコ国籍を取得しているかどうかによって移動や職業選択に大きな制限が設けられていることが分かりました。また、このような難民としての生きづらさに加え、昨今のトルコリラ下落による経済苦や、2023年2月に発生した大地震の被害で、トルコで生きること更に難しくなっているという状況がありました。



しかしそのような厳しい生活状況においてもなお、お宅を訪問すると私たちを全力でおもてなしして下さるシリア人家庭のあたたかさには、胸がいっぱいになりました。また、Piece of Syriaが「シリアの課題ではなく魅力を伝える」という理念を持って活動していることを伝えると、どのシリア人も深く頷いてくれました。私たちが大切にしている、シリアの人々への最大限のリスpektが伝わっていることが感じられた、嬉しい瞬間でした。



ガズリアンテップでは、未だに地震の被害が残る箇所が多くみられました。



今回の出張で協働関係を構築できた現地NGOのOrangeとは、小中学校への越冬支援を行いました。



イズミールではシリア人向けの幼稚園も視察しました。子ども達の元気に圧倒されました。



シリア人家庭訪問でご馳走になったカブサ(肉とスパイスの炊き込みご飯)。

教育の質向上のためのシリア人スタッフ日本研修



愛知・瀬戸SOLAN小学校にて、先生が教える際に使えるツール活用方法を相談。シリアと日本をつなぐ新たな交流が生まれています。

2023年6月1日～18日、教育プロジェクトマネージャーのシリア人スタッフのウサマが訪日しました。日本の学校・幼稚園で、先生達と対話しながら設備や授業の工夫を見学、地域のNPOでコミュニティの巻き込みの事例などを教えていただきました。大学では戦争下や難民状態における教育の研究をされている先生方と、教員研修の方法や生徒向けの心のケアのためのアクティビティの工夫を学びました。帰国後、トルコ・シリアの先生達に学びを共有し、現場で応用していく方法を模索しながら実行しています。

(本研修の実施は「世界の人びとのためのJICA基金」を活用)

<訪問先(敬称略、訪問順)>瀬戸SOLAN 小学校、津島農縁塾みんなばた、NPO法人FiIC、NPO法人三島子ども文化ステーション、Brainglish preschool、NPO法人まなびと、関西大学初等部、関西大学・黒上ゼミ、広島大学・齋藤ゼミ、溝渕ゼミ、広島大学附属幼稚園、NPO法人ANT-Hiroshima、阿久比中学校、明治大学・岸ゼミ、CAMEL、NPO法人さぼうと21、上智大学・小松ゼミ



戦争で傷ついた子ども達にはどんな教育が有効か。大学の研究者の方から学びました。



広島訪問。ANT-Hiroshimaさんのご協力で、被爆者の方から体験談を直接聞きました。



自然を身近に取り入れれたり、「遊びから学ぶ」ことを重視する幼児教育は大きなヒントに。



ウサマ自身の長年の夢であった華道の体験も、今回の訪問で実現することが叶いました。

補習校で学んだ生徒達へのインタビュー



マイスちゃん
インタビュー時 11歳
2020-22年 補習校に通う

「もっと勉強したい」と思えるようになった

補習校に通う前は、トルコ語の読み書きができませんでしたが、補習校の授業を通してトルコ語が上達しました。今はトルコの公立校に通っていますが、トルコ語での授業の内容が分かるおかげで「もっと勉強したい」と思えるようになりました。補習校でできた友達とは、今でも連絡を取り合っています。

私の様子を見て、弟も今補習校に通っています。これから下の世代の子たちのためにも、補習校はずっと続いて欲しいと思っています。

得意な科目は算数で、将来は算数の先生になりたいです。自分だけではなく、同級生たちにも夢を叶えてほしいと思っています。いつかシリアに帰れるようになったら、日本の皆さんをお迎えしたいです。

母国語のアラビア語を学ぶことは大切

補習校に行く前と後で、大きな変化がありました。私にとって最も学びが大きかったのは、アラビア語とコーランの授業でした。私は、5歳の時に家族と一緒にトルコに避難してきました。シリアにいた頃の記憶はほとんどありません。言葉もトルコ語の方が得意で、家族と話するときも、アラビア語よりトルコ語の方が先に出てしまうことがよくありました。しかし、補習校に通い、アラビア語をマスターしました。コーランを朗読するコンテストでは、市で2番目の賞をもらいました。私がアラビア語を話せるようになったことを、両親はとても喜んでいました。

やっぱり、自分の生まれた国の言語だし、いつか戦争が終わったらシリアに帰ることを考えても、アラビア語を学ぶことは大切だと思っています。将来の夢はまだ決めていませんが、薬剤師など医療系の仕事に興味があります。



ラヤンちゃん
インタビュー時 15歳
2021-23年 補習校に通う

日本からの学びと保護者・先生向けのトレーニング

訪日研修を終え、早速ウサマが日本で学んだことを現場に波及しています。日本の教育現場の見学・研究者との対談を通して得た知識を、トルコとシリアの現場の教員たちに伝える研修を実施。その結果、幼稚園のカリキュラムに体験型学習を取り入れたり、生徒の自主性を促すような教育アプローチを試みたりしています。

さらに、心理的ケアが必要な場面での教室運営や家庭での対応について、専門家から教師・保護者向けにトレーニングを実施しています。

これらの取り組みが、「地域の中でもモデルとなり、他の幼稚園や学校にも波及できたら」と現地スタッフは話します。



日本の学校で見た掃除を参考に、幼稚園でも街の清掃を行いました。



オリーブ工場や病院など働く大人の姿に子供達も興味を持っています。



日本の幼稚園で見た自然と触れ合う時間を参考に、種蒔きや芋掘りの体験を。



先生・保護者に向けて子ども達との接し方について学ぶ研修を実施。

スタッフの声

シリアをまた行きたい国にする

2011年3月、青年海外協力隊として活動して、家族のような友人ができたシリアという国で、戦争が始まりました。「戦争が終わったらシリアに帰ろう」と思っていたものの、終わらない戦争にいても立ってはいられず、「自分の目で確かめたい」と思い、シリア周辺国・欧州で話を聞きに行きました。その経験を元に、一番必要で、足りていないものを届けるために、2016年に団体を立ち上げました。

戦争という課題は大きく、無力感と向き合うことも少なくありません。しかし、微力あっても無力ではありません。Piece of Syriaという団体名とロゴには「一人ひとりのチカラが小さくても、パズルのピースのように力を合わせることで、平和(Peace)を実現できる大きなチカラになる」という思いを込めました。私たちが描くビジョンは、「シリアをまた行きたい国にする」ことです。一緒に平和なシリアを実現し、遊びに行く仲間になってください！その未来に向けて、今年はさらに新しい挑戦もしていきます。いつも支えてくださり、本当にありがとうございます！！



代表理事・創設者
中野 貴行



副代表理事
金澤 結香

5年前トルコで代表の中野と出会ったことが活動に関わるきっかけに、そして5年後トルコを訪れて活動が如何にシリアの人々へのエールになっているか感じました。5年間の間で様々な状況の変化がありましたが、団体が成長しながら継続的に支援を届けてきたこと。それはシリアの方々の希望へ確実に変わっています。私たちの活動を理解し、応援して下さる支援者さんがあってこそです。困難な状況にあっても、力強くなやかにサバイブしているシリアの方々へこれからも応援の気持ちを届けていきます。

昨年からフルタイム職員第一号として勤務することになり、夏には初めてのトルコ出張の機会も頂き、今までと違う角度から団体の活動が見えるようになりました。「シリア」を団体名に冠して活動していること、課題ではなく魅力を伝える広報に徹していること、これらは意外と(?)チャレンジングなことなのです。理解してご協力くださる支援者の皆さまに支えられて、私たちの活動が成り立っていることを日々感じています。心より感謝申し上げます！



事務局長
鈴木 のどか



広報・ファンドレイジング
坂田 実緒子

昨年の3月からスタッフとして仲間入りし、広報・ファンドレイジングの担当として、Piece of Syriaの活動をより多くの方に知っていただき、支援の輪を広げることを目指して活動してきました。シリアの未来を皆様のご寄付によって、将来に希望を持ち、子ども達がどんな状況でも学び続けられる環境を整え、またきつと平和になったシリアへ、支援者の皆さんと一緒に旅に出る未来を描いています。

昨年は、シリア人スタッフが来日し、私が働いている小学校にも視察に来てくれました。子ども達との交流や見学を通して、シリアの幼稚園にも持ち帰りそうなアイデアを得ることができました。こうしたことが実現できたのも、日頃、Piece of Syriaの活動を理解し、応援して下さる支援者の皆様のおかげです。今回は「シリアから日本に来る」という大きな一歩となりましたが、いつか「日本からみんなでシリアへ」が叶うよう、活動をしていきたいと思います。



プロボノスタッフ
鈴木 慶樹



プロボノスタッフ
伊藤 広

中東の文化や食に興味を持ち、1年半前からプロボノとして本業の経験を活かして広報のサポートをしています。皆様の支援のおかげで、Piece of Syriaとしての活動の幅が広がり、毎年より多くの子ども達に教育を届けることができるようになってきているのシリア人スタッフとのコミュニケーションからも感じています。これからもみなさんに「支援してよかった」と思っていただけのように、シリア・日本両方からの情報を届け、情報を発信していきます。

シリアの子ども達は、未来への道を切り拓いています

12年以上続くシリアの戦争では、特に子ども達が辛い状況に追い込まれています。戦争は、直接的に命を奪うだけでなく、教育を奪うことで「未来の世代」を破壊してしまうのです。もし教育の場がなければ、難民・国内避難民となった子ども達は、児童労働や早婚という手段を選んでいかざるを得ません。

皆さんの継続的な支援によって、3000人以上の生徒が小学校や幼稚園、補習校を卒業しています。その恩恵は、子ども達だけでなく、家族にとっても希望となって届いています。日本の皆様は第二次世界大戦の痛みと経験を知っているから、シリアの子ども達に想いを寄せてくださるのだと、私は感じています。そして教育の重要性を知っているからこそ、教育の力で平和を実現しようとする私たちに共感してくださっていると思っています。シリアの子ども達は、未来への道を切り拓いています。彼ら、彼女らは、自分たちが勉強できていることに、日本の「家族」が寄り添って下さっていることを理解しています。いつか平和になったシリアで、直接お礼を伝えられる日を願っています。



現地プロジェクト
マネージャー
ウサマ



SAKURA幼稚園
マネージャー
アナス

教育は、未来の世代を育成し、前へ進む希望の力を与えてくれる

Piece of Syriaの皆さん、そしてご支援して下さる日本の皆様は、最高の友人です。悲劇に見舞われた私たちを、皆さんは見放すことなく、子どもたちが未来を築く道を切り開く機会を下さいました。あなたの寄付で、継続的に無料の教育を提供し、小学校入学の資格を与えることができました。私たちは、平和を築き、戦争をなくすことを目指しています。そのために、教育の力で平和な社会を築いてきた日本の経験から学んでいるのです。ご寄付によって継続的に運営できているSAKURA幼稚園は、シリアの将来の世代に大きなプラスの影響を与えます。教育は、未来の世代を育成し、前へ進む希望の力を与えてくれるものです。何百人もの保護者が、子ども達が無料で、そうしたケアや基礎教育を受けさせることができていることに感謝しています。この活動ができるのは、あなたの寄付があるからなのです。私たちの子ども達に寄り添ってくれて、心から感謝します。

組織基盤強化に取り組んでいます

日本スタッフの組織基盤強化: 認定NPO法人を目指して

私たちは2021年から助成をいただきながら、組織診断・基盤強化に取り組んでいます。その成果が現れたのは、今回の緊急地震支援でした。昨年度、全事業で1000万円規模だった私たちの元に、1200万円を超える緊急地震支援が集まりましたが、現地スタッフと綿密な連絡をとりながら、臨機応変にニーズに対応する活動のため、全額を現地で有効活用し、メディア対応や支援者の皆さんに向けた報告もすることができました。これらは、組織基盤を整えてきたからこそ成しえたことでした。なかなか表に出ない組織運営ですが「縁の下の力持ち」があってこそ、海外事業に専念できています。

今年度の決算は4000万円規模となりましたが、継続性にはまだ課題があります。ガザ侵攻以降、シリア支援の減少に拍車がかかっており、「Piece of Syriaが支援している学校しか運営できていない」という現地スタッフの声が届きました。より一層、資金調達のニーズが高まっています。私たちは広報・ファンドレイジング職員として坂田実緒子を雇用、認定NPO法人テラルネッサンスの島彰宏氏に伴走いただき、安定した経営基盤作りに取り組んでいます。そして、支援者の皆様からの期待に応えられるよう、ご寄付が税控除の対象となる認定NPO法人を目指しています。認定取得へのプロセスは決して簡単ではありませんが、挑戦していきます。

現地プロジェクトの強化: モニタリング評価

2023年7月に中野と鈴木がトルコの事業地を訪れました。事業のモニタリングとパートナー団体との会議に加え、新たな事業の発掘のために他のシリア支援NGOを訪問してのヒアリングを行いました。また、事業の質を高めていくために、外国人の入れないシリアの事業地を訪問できる協力者による、第三者視点でのモニタリングを開始しました。認定NPO法人パルシックのプログラムオフィサー・チームリーダーとして事業管理をしていた経験のほか、数団体でプロジェクト管理経験を持つプロジェクト管理のシリア人専門家と、活動の評価・モニタリングを実施する体制を作っています。今まで以上に質にこだわった教育支援ができる取り組みを実施しています。



普段はオンラインで会議を重ねています。



出張時にモニタリングの打ち合わせ。



シリアスタッフが研修のために来日中、愛知、大阪、広島、東京にて講演・報告会を開催しました。

難民・戦争という切り口で語られることが多いシリアですが、私たちは「課題ではなく、魅力を伝える」をテーマに、シリアの文化や生活、人の魅力について発信することを大切にしています。

2023年はシリア人スタッフが直接お礼を伝える活動報告会を大阪・東京・広島で実施し、愛知で戦争前の美しいシリアの写真の展示も行いました。また、シリアの家庭料理本「スマック」の著者・翻訳者を招いたPEACE DAY共同企画や、音楽・文学・宗教・民族などのシリアの文化を解説いただく「教養ゼミ」をオンライン開催。「いつか平和になったシリアに行ってみよう」と感じていただき、平和の大切さについて考える機会を提供しています。



愛知・TOUTEN BOOK STOREにて写真展を開催。書店での開催ということでシリア関連書籍コーナーも設置しました。



ロックバンドFUNKISTのライブに出演。6月の沖繩・慰霊の日になんだ平和イベントにも登壇。



滞中に実施した報告会で、支援者の皆様とふれあい、有意義な時間を過ごせました。



日本で初めてのシリア料理レシピ本「スマック」の著者と翻訳者をゲストにイベント開催しました。

参加者の方の声

シリアについて初めて知ることばかりで大変勉強になりました。どんな状況にありながらも、終始また平和になるシリアを願う明るい雰囲気伝わってきて素敵でした。

(20代 NPO職員)

支援ありきではなく、現地の方々のやりたいことを応援するところが素敵だなと思いました。美しいシリアを旅することが夢の一つに加わりました。

(30代 主婦)



保育園から大学・一般まで。講演会を実施

今年度は「シリアで教育支援をすることの価値と難しさ」「子どもとどう平和を語ったらいいですか？」などをテーマに32の学校・団体と協働し講演活動を実施しました。

＜講演実績＞京都市立修学院小学校、G7広島市民サミット分科会、瀬戸SOLAN小学校、関西大学初等部、アサンプション国際中学校、昭和学院中学校・高等学校 ボランティア部、関西大学附属中等部、JICA中国、世界の医療団 主催イベント「世界難民の日」よせてーシリアの現場からー登壇、Brainglishインターナショナル保育園など



シリアスタッフが研修のために来日中、愛知、大阪、広島、東京にて講演・報告会を開催しました。

▲2023年9月アサンプション国際中学校にて、講演を実施しました。シリアと聞いて馴染みのない子ども達も多く、メディアで報道されるシリアの情報だけでなく、戦争が始まる前の様子や魅力的な文化や歴史に、興味を持って聞いてくれました。質疑応答では、「シリアの料理を食べてみたかった」「平和になったシリアへ行ってみたくかった」という感想も。講演を通して、日本国内での平和の担い手づくりにも貢献することができたと考えています。

講演依頼を受け付けています 学校講演・企業研修・国際理解・SDGs研究

講演のご依頼は、右記QRコードから、お気軽にお問い合わせください。内容、対面、オンラインなど、ご希望に合わせて実施いたします。



パートナー会員様からのメッセージ



富久 泰志 さん

ポジティブな支援が未来につながる

人々の暖かさや美しい景色・文化といったシリアの魅力語る中野さんの笑顔に魅かれたことが、わたしが支援を始めたきっかけでした。シリアについてほとんど知らなかったわたしですが、イベントの参加やスタッフ・支援者との対話を通して、楽しみながらシリアのことを学んでいます。活動報告でシリアの子供たちが楽しく学んでいる様子を見て、笑顔から生まれたポジティブな支援が明るい未来に繋がっていくことを実感しています。



岡野 優子 さん
岡野 壮真 くん

親子の力とPiece of Syriaの力を合わせて変化を

息子にはシリア人の親友がいます。「シリアをまた行きたい国にする」というメッセージが心に響き、親子で参加しています。シリア情勢は複雑で大人ですら無力感を覚えますが、団体の皆さんの前向きな思いにふれたとき、子供が自らシリアの魅力クラスに伝えたり、寄付金を集めるためにマーケットに出店したりと小さな一歩を踏み出すようになりました。私たち親子の力はとっても小さいけれどPiece of Syriaの皆さんと一緒に何か変化を起こせるかもしれない。そんな希望が生まれています。



中村 滋 さん

「教育は緊急支援」という理念に共感

たまたま見つけた「シリアをまた行きたい国にする」という言葉が気になってオンラインイベントに参加したのが出会いでした。それまでは内戦のイメージしかなかったのですが、以前トルコの仕事でシリアの近くまで行っていたことに気付いてさらに興味が湧いたことで、何度かイベントに参加しているうちにシリアの様々な魅力を知り、中野代表のシリア愛やそれを支える内外のスタッフのみなさんの優しさにも触れて、自然と応援したい気持ちになっていました。「教育は緊急支援」という理念による活動にも共感して、応援しています。

日本の学生の皆さんとPiece of Syria

学校で寄付集め

中学生や高校生の皆さんの活動によるご寄付にも支えられています。青森明の星中学・高等学校では、文化祭で、シリアやPiece of Syriaのことを調べて発表し、アレppoの石鯨・オリジナルキャラクターのシール販売、寄付集めをして私たちに届けて下さいました。



自由研究でシリアの話を

小学校2年生の岡野 壮真くんは、自由研究でシリアやPiece of Syriaについて発表して下さいました。お母様の優子さんは「寄付体験が子育てにとって大きな学びにつながる」と話して下さいました。



プロボノチームのご協力で

【法人寄付会員】募集へ向けて一歩前進

認定NPO法人サービスグラント様を通して、2023年度は7名のプロボノワーカーさんのご支援を受け、法人寄付会員獲得のための営業資料作成に取り組みました。様々な分野でご活躍されているプロボノの皆さんが、Piece of Syriaの現状をヒアリングしつつ多角的な意見を出し合い、成果物に落とし込んでいく過程は大変勉強になりました。プロボノの皆さんとは、プロジェクト終了後も関係性が続いており、この度のご縁に感謝しております！



法人寄付会員にご関心がある方はメールまたは「お問い合わせ」からご連絡お待ちしております



たくさんの方に支えていただきました

Piece of Syriaが、継続してシリアの子ども達に教育を届けられているのは、いつも支えてくださる皆さまのおかげです。2023年度は、継続・単発・クラウドファンディングなど様々な形で、約710名(延べ人数は1000名を超える)の方々にご寄付をいただきました。一部とはなりますが、ご寄付・ご助成いただいた個人・法人の皆さまをご紹介します。

京子様	野口 晶子様	杉本 規彦様	中山 迅一様	きたむらさとし様
松田 素子様				
				
	公益財団法人 大阪コミュニティ 財団	公益財団法人 庭野平和財団	そして 2023年度にご寄付いただいた 約710名のみなさま ありがとうございました!	

》メディア掲載

- 朝日新聞(ひと)中野貴行さん 内戦後のシリアで200人の幼稚園を運営するNPO代表(2022年11月19日)
- 朝日新聞「『お金持ちになりたい』と言った少女へ いくつか伝えたい言葉」(2022年11月21日)
- テレビ朝日【大下容子ワイド!スクランブル】(2023年2月1日)
- 読売新聞「トルコ地震でマンション倒壊、涙流し2人の子を探す母…シリアと合わせ死者5000人超」(2023年2月7日)
- NHK「大地震 トルコとシリア支援 NPOがクラウドファンディング」(2023年2月9日)
- テレビ朝日【グッド!モーニング】(2023年2月10日)
- 関西テレビ【報道ランナー】死者3万4000人超…トルコ・シリア大地震から1週間 孤立するシリア 長引く「内戦状態」の中で襲った地震 支援物資が届かない地域も(2023年2月13日)
- テレビ大阪【トルコ・シリア大地震】子どもの笑顔、取り戻す!大阪NPOがシリアを支援(2023年2月16日)
- 日本WHO協会「目で見ると見るWHO 2022年冬号」寄稿(2023年4月14日)
- 朝日新聞 大阪版14面「シリアの実情 NPO報告」(2023年6月11日)
- 朝日新聞デジタル「長引く内戦下に襲った大地震 初来日のシリア人が伝える祖国のいま」(2023年6月11日)
- ニュースウィーク日本版 特集「世界が尊敬する日本人 100」選出(2023年8月8日発売)
- NHK【ほっと関西】トルコ・シリア大地震から半年 窮地に立つ支援活動(2023年8月16日)
- 「好きな場所ではたらく」(お仕事ノンフィクション編集部編、岩崎書店、2023年9月1日発売)
- 読売KODOMO新聞「ワクワクWORK」(2023年9月28日)



読売KODOMO新聞



「大下容子ワイド!スクランブル」



ニュースウィーク



「好きな場所ではたらく」

2023年度 活動計算書

2022年10月1日～2023年9月30日
(2023年に実施したクラウドファンディング資金については、2024年度活動計算書にてご報告いたします)

科目	金額(単位:円)	
	前期 (令和3年度)	今期 (令和4年度)
経常収益	0	0
受取寄附金	8,089,024	34,401,544
受取助成金等	2,180,000	5,911,111
事業収益	182,960	275,311
その他収益	32	106
経常収益計	10,452,016	40,588,072
経常費用		
(1)事業費		
給料手当	0	392,604
法定福利費	0	83,658
業務委託費	5,901,316	21,643,023
謝金	86,516	591,715
印刷製本費	0	23,684
会議費	3,500	12,963
旅費交通費	0	2,080,422
通信運搬費	0	204,819
消耗品費	35,572	213,619
研修費	5,000	0
賃借料	0	215,405
支払手数料	50,221	896,156
新聞図書費	24,787	6,793
雑費	15,793	7,000
事業費計	6,122,705	26,371,861
(2)管理費		
役員報酬	50,000	40,000
給料手当	0	678,907
法定福利費	0	125,485
業務委託費	540,334	1,914,200
謝金	0	189,000
印刷製本費	256,719	93,670
会議費	5,977	0
旅費交通費	511,538	131,470
通信運搬費	63,525	84,139
消耗品費	249,218	481,323
租税公課	4,900	7,325
研修費	121,500	12,650
支払手数料	969,940	748,899
新聞図書費	28,850	0
雑費	14,260	0
管理費計	2,816,761	4,507,068
経常費用計	8,939,466	30,878,929
当期経常増減額	1,512,550	9,709,143
経常外収益	0	0
経常外費用	0	0
税引前当期正味財産増減額	1,512,550	9,709,143
法人税、住民税及び事業税	0	0
当期正味財産増減額	1,512,550	9,709,143
前期繰越正味財産額	243,598	1,756,148
次期繰越正味財産額	1,756,148	11,465,291

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、NPO法人Piece of Syriaの収支を正しく示していることを認めます。
監事:武田 祐輔 会計顧問:長田和弘税理士事務所

- 1 受取寄附金**
前期より約4.25倍の増収となりました。地震支援の際に1,000万円を超えるご寄附をいただいたことが要因の一つです。うち約410万円がパートナー会員様の継続的なご寄附です。約556万円が、2022年に実施したクラウドファンディングの資金です。
- 2 受取助成金等**
今期は助成金チームを組んで積極的に申請に取り組み、前期より2.7倍の増収です。採択された助成金一覧についてはp13をご参照ください。
- 3 事業収益**
講座・情報発信事業として、講演謝礼、イベント参加費、株式会社With The World様との教育機関向けオンライン授業(シリア人学生との交流)への謝礼が含まれています。
- 4 給料手当(事業費)**
今期より、業務委託だったスタッフの常勤職員雇用を始め、事務局機能全般を担っています。これまで管理部門の業務委託費で計上していた人件費を、給与として計上しています。(管理費との按分を行っています)
- 5 業務委託費(事業費)**
地震支援、教育支援として現地に届けた金額です。Piece of Syriaは、現地提携団体を通して事業運営を行っているため、現地送金額が「業務委託費」と仕訳されます。活動の拡大に加え、円安の影響もあり、前期より約3.6倍の金額になりました。
- 6 謝金(事業費)**
ICA基金事業を活用して行った、シリア人スタッフの能力強化研修を担当していただいた教育専門家の謝礼が含まれています。
- 7 旅費交通費(事業費)**
シリア人スタッフの日本招聘、中野・鈴木のトルコ出張費と、イベントのための国内交通費が含まれています。(日本招聘は世界の人のためのJICA基金、トルコ出張は庭野平和財団の助成金を活用しています)
- 8 通信運搬費(事業費)**
クラウドファンディングのリターン発送経費が含まれています。
- 9 消耗品費(事業費)**
クラウドファンディングのリターン品購入費が含まれています。
- 10 支払手数料(事業費)**
寄付募集のために利用しているReady ForやSyncableの手数料や、事業費のための海外送金手数料が含まれています。(管理費との按分を行っています)
- 11 業務委託費(管理費)**
広報・ファンドレイジング担当として、2023年3月より入職した非常勤スタッフ1名、税理士事務所、JICS助成によるファンドレイジング伴走支援への業務委託費が含まれています。
- 12 謝金(管理費)**
Panasonicサポートファンド様の助成金を活用し、組織基盤強化のために、他団体を訪問し取り組みを学んだ際の謝金が含まれています。
- 13 消耗品費(管理費)**
ウェブサイト管理費、ドメイン料、サーバー管理費、会計ソフト使用料などが含まれています。
- 14 次期繰越正味財産額**
約1,100万円を次年度に向けた資金として繰り越しました。新事業への着手や、認定NPO法人格取得のための組織基盤づくりを行います。

ご支援の方法

パートナー会員として応援する

継続的にご支援いただくことで、柔軟で安定した教育支援をシリアの子ども達に届けることができます。右記QRコードからお申込みいただけます。



都度寄付で応援する

単発寄付も受け付けています。クレジットカードまたは銀行振り込みからご寄付いただけます。右記QRコードからお申込みいただけます。



銀行振込

楽天銀行(0036)
口座名: トクヒ)ピースオブシリア
支店名: 第三営業
支店番号: 253
口座番号: (普通) 7246297

※直接振込をご希望の方は、振込人名義の冒頭に「キフ」を付けてください。
※匿名をご希望の方は、振込人名義を「キフ トクメイ」にしてください。
※恐れ入りますが、振込手数料はご負担をお願いしています。

あなたのご支援でできること

monthly
毎月

1,000円のご支援で(心のケア)

戦争・地震によって、心にトラウマを抱えてしまったシリアの子ども3人に、専門家による心のケアのためのアクティビティが実施できます。

monthly
毎月

3,000円のご支援で(教育支援)

避難生活で収入が安定していない家庭を対象に、授業料だけでなく筆記用具・バッグ・教科書や安全に通園できるバスを提供し、無料で教育を受けることができますようになります。

monthly
毎月

10,000円のご支援で(先生サポート)

政府や国連などから支援が届きにくい地域では、先生達が無給になることも。先生たちの給与と安定的に給与を届けることで、家族を守りながら教師を続けられます。(1年間のご寄付で半年分)

パートナー会員としてご支援いただくと...

- ①会員限定オンラインイベントへのご招待
- ②活動報告書の送付(毎年4月頃送付予定)
- ③会員限定Facebookグループへのご招待(任意)
- ④メンバーシップパスポート(会員限定冊子)
- ⑤スタッフからのメッセージ付きオリジナルポストカード
- ⑥シリアのハーブティーバッグ

運営体制

役員・職員 中野 貴行(創設者・代表理事)
金澤 鮎香(理事・職員)
鈴木 のどか(理事・職員)
坂田 実緒子(職員)

監事 武田 祐輔

会計顧問 長田和弘税理士事務所

プロボノスタッフ

鈴木 慶樹
伊藤 広
石井 貴幸
Shiho
丹野



NPO法人Piece of Syria
〒558-0033
大阪市住吉区清水丘1-15-23
✉ contact@piece-of-syria.org
🌐 http://piece-of-syria.org

SNSでPiece of Syriaとつながる

Facebook piece.of.syria
Instagram piece.of.syria
Twitter piece_of_syria
YouTube PieceofSyria



※ 前回の報告書の期間は「2022年4月～2023年3月」でしたが、今回は決算に合わせて「2022年10月～2023年9月」となりました。そのため一部、前回と記載が重複している部分がございます。来年以降も報告書の対象期間は10月始まりとなります。